

尾瀬ネットワーク通信



Vol.23, No.3 2020年11月

目 次

- 新インタープリター5名誕生・・・・・・・・・・・・・1
- 歩行ルート・スナップ・・・・・・・・・・・・・2
- 新インタープリターご紹介・・・・・・・・・・・・・3-5
- 群馬側 「昭和の負の遺産」と困った入山指導・・・・・・・・6
- 群馬側 最終活動・・・・・・・・・・・・・7
- 事務局だより・・・・・・・・・・・・・8

新インタープリター5名誕生 2019 尾瀬 academy

2019年台風19号の影響のため延期していた尾瀬アカデミーは、年を跨ぐ異例の開催となりました。好天には恵まれず、コロナ禍、再び雨天となりましたが、すれ違う人も少ない静かな尾瀬沼で第2回尾瀬アカデミーを開催できました。群馬側は大清水7時出発、福島側も御池を同じく7時出発、合流地点の三平下を目指して研修を開始しました。



<撮影：2020/10/10（土）尾瀬沼-沼尻にて>

三平下において休憩所をお借りして修了式、少々早い昼食、写真撮影を行いました。尾瀬沼南岸の木道は修復され、開通されましたが、沼尻休憩所およびトイレは閉鎖中でした。

標高1660mにある尾瀬沼の気温は、10～11℃前後で推移、雨量は1時間5mmくらいでした。しかし降り止まぬ雨のためレインウエアーを着ても、しみ込んだ雨は服まで浸透してかなり体温を奪っていました。

< 歩行ルート >

福島側	群馬側
<p>御池出発 御池→（シャトルバス）→沼山峠登山口→大江湿原→ビジターセンター→三平下→修了式（合流）</p>	<p>大清水出発 大清水→（シャトルバス）→一ノ瀬→三平峠→三平下→修了式（合流）</p>
<p>三平下発→（尾瀬沼南岸）→浄化槽→取水口→沼尻平湿原→（負の遺産）→沼尻</p>	<p>三平下発→（尾瀬沼南岸）→浄化槽→取水口→沼尻平湿原→（負の遺産）→沼尻</p>
<p>沼尻発→（尾瀬沼北岸）→浅湖湿原→大江湿原→沼山峠→（シャトルバス）→御池着</p>	<p>沼尻発→（尾瀬沼南岸）→三平下→三平峠→一ノ瀬→（シャトルバス）→大清水着</p>

< スナップ >





雨天、歩行約 15 km、9 時間のスケジュール（撮影/三平下）

<新・インタープリターご紹介>

・高橋まり子さん（東京都）

写真

「尾瀬インタープリター養成講座」を受講して

2年がかりでやっとスタートラインに立てたのかと思うと、とてもうれしくなりました。

自然の影響には逆らえませんが、スタッフのみなさまの熱意と幸運が味方してくれたのか、無事終了できました。

尾瀬の自然に惹かれて、もっとこの場所の自然を知りたい、通いたいという気持ちを持っていました。ある時「自然保護」に養成講座の募集が出ているのを目にして、そうだ！この場所に「用事」があればこの希望が果たせる、と申し込んでしまいました。そのようにあまり志の高くない動機からで、尾瀬の知識もあまりありませんでした。

講座を通して尾瀬の過去と現在と未来を学び、これからも情報と現地の現状の両方から尾瀬を理解していく基礎ができたと思います。

予備知識が浅く、尾瀬のゴミを目の前にした時には大きなショックを受けました。近年の大型野生動物との軋轢の問題は全国的に見られますが、水路の事、生活排水、ゴミの事、気象災害など研修を通して知り、その現状を目にして衝撃を受けました。研修資料でも具体的な数値をあげて様々な角度から尾瀬の現状を知ることができ、今後のために有意義でした。

大勢の人材で綿密に計画され、資料作りや養成講座を実施していただきました。参加以前に集合するまでも、大変手の焼ける私を受け入れてくださったみなさまに感謝します。何ができる訳でもありませんが、年数回の尾瀬での活動を好奇心のアンテナをいっぱい張り巡らせて、みなさまと楽しく活動ができればと願っております。どうぞよろしくお願いします。

・佐々木弘樹さん（福島県）

写真

「尾瀬アカデミー参加感想文」

かつて縦横無尽、いや傍若無人に駆けずり回った尾瀬は、思い出のかけらが各所に散らばっている。時にささくれ立った気分も、尾瀬に来ると和み、いつしか本来こうしたいと考える自分にしてくれる。東日本大震災・東京電力原発災害後、日本そして世界から疎んじられ、ポツンと取り残された感覚になった一人の福島県在住者として、こらえきれず癒しを求めたのも尾瀬。ならばこれからは少しでも恩返し、懺悔と罪滅ぼしにと受講した。率直な感想として、スタッフや参加者の意識の高さ、知識の深さ、尾瀬を見つめる優しさに共感と感動。今まで気に留めなかった多様な植物群は、まさに目からウロコ的感覺。また廃棄物処理、水利権など負の側面の実態は、関心を持ち続ける事が何より大事と勇気づけられた。

メガ台風、新型コロナ禍などにより、二年越しで“母なる尾瀬”について見つめ直した事は、自分の生き様を考える意味でも貴重な体験となった。この場を借りて全ての関係者に、深く感謝いたします。

・蜂須賀克明さん（群馬県）

写真

「2019尾瀬アカデミーに参加して」

尾瀬の美しい自然に魅せられ、片品北小学校を希望し、子供達と一緒に尾瀬を歩き始めて40年近くなります。

尾瀬は、汲めども尽きない自然の大図書館。訪れる度に新鮮で嬉しい発見がたくさんあり、その感動を「尾瀬だより」に残してきました。

たよりの主役は、可憐な高山植物。森の音楽を奏でる野鳥たち。魅力的な高山蝶や飛ぶ宝石のような蜻蛉たち。そして森の住人、動物たち…。

「尾瀬アカデミー2019」に参加させていただき、今まで知らなかった尾瀬の現状をたくさん学ぶことができました。

地球温暖化による真夏日、降雨量の増大。シカ食害の厳しい現状。外来植物の侵入による植生の変化と現状維持の難しさ。人間が利用することによる汚水処理の現状。尾瀬沼取水の利害と尾瀬ヶ原乾燥化の要因。そして深刻なゴミ放置問題…。

美しい尾瀬の自然を守るためには、訪れる人々と共に考え、未来に生きる子供たちにそのまま引き継いでいく責任を強く感じました。

今後、自分なりに無理なくできることを通して、「尾瀬ネットワーク」の活動に参加させていただきます。3日間、本当にありがとうございました。

・田村泰彦さん（群馬県）

写真

2019 尾瀬自然保護ネットワーク

「尾瀬アカデミー」に参加して磯部理事長はじめ、みなさんに大変お世話になりました。また貴重な講話と資料をありがとうございました。

一ノ瀬において講習会の趣旨や目的を聞きました。今日は会津街道（沼田街道）という、江戸時代には桜枝岐村と片品村を結ぶ交易のため

の古道を三平下まで歩き、福島組と合流。その後、尾瀬沼南岸を沼尻休憩所まで往復する行程など説明を受け出発しました。

平野長靖さん終焉の場所、観光道路反対運動、大石武一環境庁長官の決断、岩清水の枯渇など、道路工事中止の経緯や、常緑針葉樹と落葉樹の生態的特性、気象、地形との関係など講話を受けながら三平峠に到着。ここではオオシラビソ伐採の予定があるようですが、最低限にしてもらいたいものです。

三平下休憩所のご厚意により、室内テーブルや椅子を使わせていただき助かりました。磯部理事長より一人ひとりに修了証が交付されました。昼食後、身支度を整え午後の講習です。長蔵小屋などが使用している浄化槽の処理水は、東京電力による尾瀬沼の取水と一しょに群馬側に流されるようです。次に東電が尾瀬沼より毎分 70 トン余りを取水して、片品発電所などで使用している取水口を見学。水質は全国の 188 湖沼中 153 番目とのこと。

小さい起伏の連続の木道を歩く。昨年の台風が原因と思われるオオシラビソの倒木。尾瀬沼湖面にはオシドリ、カワウなどが見られ、フトイは筵（むしろ）などに利用していたようです。

尾瀬沼水位調整ゲートの開閉方法が、ハンドル式よりインパクトトレンチを使い開閉するようになっています。沼尻休憩所は休業中によりトイレは使用禁止となっていました。沼尻平湿原では、気候温暖化の影響と思われるコケの出現、池塘の植生、浮島の成因について話を聞きました。

尾瀬国立公園内の 11ヶ所あるというゴミ捨て場の一つを見学しました。ゴミ搬出作業は実施したようですが時間と予算が足りず中断した跡地です。未だに大量のゴミが残っていました。また世界文化遺産の登録を目指している話など盛りだくさんの内容でした。

福島組と分かれ群馬組は三平峠経由して大清水へ戻り、来年度の予定や活動内容など説明を受け解散となりました。

運動不足で歩みが遅くなり、みなさんにご迷惑

を掛けてすいませんでした。特に印象に残ったことは、コシアブラ、ゴミの問題、世界文化遺産でした。問題点を見極め楽しく保護活動を行いたいと思います。

・黒崎哲也さん（栃木県）

写真

私が尾瀬の自然保護活動に興味を持つきっかけを話させてもらいます。学生時代に学校行事で尾瀬に 1泊2日 で尾瀬に行く機会がありました。それまで尾瀬には何度か行く機会がありましたが、尾瀬の特徴や問題点を知ることは無かったです。しかし、学校行事で行った際に尾瀬自然保護ネットワークの人から尾瀬のゴミ問題や自然の特徴を教えてもらい、尾瀬が抱えている問題点などを知ることができました。その際今後は若い世代が尾瀬の魅力や問題点を、後世の人達に伝えていく必要があると感じました。そのため、今回この研修会に参加することにより新たな発見をすることが出来ればよいと思い参加しました。

研修会では知らないことが多く一つ一つ丁寧に教えていただきとても勉強になりました。今後は微力ではありますが尾瀬自然保護ネットワークの活動に参加していきたいと思います。

よろしくお願ひします。



(※) 2019 (夏) アカデミーは HP-会報 Vol.22-No.3
https://oze-net.com/kaihou/pdf/1911_oze81.pdf

■群馬側活動

「昭和の負の遺産」と困った入山指導

指導員 中嶋周子

活動日：2020/9/10（木）

今日のスケジュールはシカの食害状況確認と、木道修理が終わり通行可能となった尾瀬沼南岸ルートの確認です。今日のルートは大清水→一ノ瀬（標高 1420m）→三平峠（標高 1762m）→三平下→沼尻の往復であり、歩行距離は約 14 km です。

猛暑の東京を脱出し、2020 年度初の活動に参加しました。朝 7 時大清水発一ノ瀬行きのシャトルバスに乗車予定で宿を出たものの、紅葉前のオフシーズンのため、7 時発のバスは運休、バス停で 30 分間の待機となりました。

その間、小雨のため大清水で雨宿り中に、岡山からキャンプ旅をしている若者 2 人組に、宿泊場所の相談を受けました。さっそく用意してあった「地図」を渡し入山指導。二人の装備は問題なさそうであるものの、尾瀬沼までの想定時間にはやや不安があり、アドバイスをさせていただきました。次のご相談を受けた相手は、なぜか裸足で自転車に乗り、小雨の大清水までやって来た二人のハイカーより、「自転車で尾瀬沼まで行きたい」旨の内容でした。大山さんは無謀な質問に対し、丁寧に指導をされていました。もちろん、その申し出は、「却下」です。

次第に晴れ男を自称する同行者のお蔭か、幸運にもバスに乗り込む頃に雨は上がり行動開始です。登山道では未だ緑の鮮やかな木々もありましたが、ドングリや数々のキノコが顔を出し秋の気配となっていました。三平下から沼尻の間にある「う回路」付近では、昨年の台風の影響と思われるダケカンバ、オオシラビソの巨木の倒木が見受けられました。また今までに私が見たことのない茶色いカエルも発見しました。湿地では大きく成長したミズバショウの葉が、シカやクマに食い荒らされている姿を確認しながら尾瀬沼に到着。

かつて沼尻までの木道はかなり荒れ、通行止もありました。今年は既に修復され、ゴム製の滑り止めが敷かれた箇所もあり通行は可能でした。それでもすべてが安全な歩行とは言えず、厳しい状況の箇所も残っていました。沼尻の休憩所、トイレはコロナ禍の影響で年間通じ閉鎖中でした。



静かな尾瀬沼 2020/9/20

ランチの前に「昭和の負の遺産」を確認しました。思わず、「まだ、あるんだ」と落胆しましたが、数年前に尾瀬アカデミーで見学した時より、気のせいかゴミの量が減っている印象も受けました。沼尻平ではリンドウ、ススキ、オトギリソウが綺麗に存在感を出し、秋を満喫することが出来ました。ランチのあと、「南岸ルート」の道が開通しているかと、若い男性より話しかけられました。通行止情報を確認せずに現地に来てしまったようです。困みにその方の所持品は、椅子と本と飲み物（ペットボトル）だけを手で持っていました。



怪我や救助者の負担、天候の変化など余り考えないのでしょうか。また帰路の木道で私たちを走るように追い抜いた若い男性は、サンダル履きに所持品はラジオのみという、超軽装の人も含めて今日出会った人数は 32 名と閑散でした。

いつまで経っても廃棄物はそのまま、サンダル履きにラジオなど、尾瀬の自然に対する接し方がぞんざいで、かつ能天気で無茶なハイカーの態度を見ると、すべて「昭和の負の遺産」に思えます。

平成も終わり令和になりましたが、余り見かけない「昭和時代の残念なもの」もたくさん見た感じです。それでも静かな秋の尾瀬は十分に味わいました。

参加者（3名）：大山、中嶋、初谷

■群馬側-最終活動

群馬側担当理事 小鮎 守

縮小せざるを得なかった今年度の活動は、10月4日で最終回を迎えた。鳩待峠広場は、朝7時現在、曇り気温5.4度。参加者は前泊組5名と当日参加組3名の計8名で開始。



団体の入山者はなく、登山者も疎らであり閑散の鳩待峠。ブースの設置はせずに、看板のみを出し入山指導を開始。今回の主な活動のテーマは、次年度に実施予定である鳥の観察地点の選定と研究見本園のシカ柵設置現場の視察を兼ねた活動とした。



鳩待峠から山の鼻間は木々の紅葉が見ごろとなり、ブナの森にハウチワカエデやヤマモミジが目を奪った。テンマ沢湿原には無数のシカの足跡。

ミズナラにはたくさんのクマ柵が観られ、改めてクマの生息地にお邪魔しているのだと感じさせられた。

研究見本園は草紅葉も終盤を迎え、冬間近と思われた。シカ柵は高さ250cmほどで見本園の北側半分ほどを囲っている。この場所はクマの通り道であり、囲いに沿ってクマが移動すると、ビジターセンターや山の鼻の小屋方面へ出没し易くなるようにも感じる。



ツキノワグマ目撃多数一ヶケン一の立札



この研究見本園にあるベンチ付近より野鳥の観察ができた。見本園を起点に山の鼻から尾瀬

ヶ原へ向かう途中でウグイス、メボソムシクイ、アカゲラ、キジバト、モズ、コサメヒタキ、カケス、アオゲラ、ダイサギなどを確認しながら活動を終了とした。参加された皆様お疲れさま、来年度の活動もよろしくお祈りします。

参加者（8名）

伊藤（ア）、伊藤（佳）、上原、上原（桜）、大山、小鮒、須賀、中嶋

事務局だより

■現地活動

昨年台風のため延期となっていた「尾瀬アカデミー」は5名の参加者で実施できました。またコロナ禍の影響で今年の活動は、群馬側2回、福島側2回と少ないながら、事故や怪我無くフィールド活動はすべて終了しました。

■理事会開催

11月14日（土）、福島県郡山建設組合会議室において理事会が開催されました。次年度の総会日程や活動計画などが話し合われました。詳細は次回理事会（2021年1月30日）で決定します。

○第18期通常総会

- ・2021年4月18日（日）・13:00～
- ・大宮ソニックシティ

開催に対し不安な材料はありますが、上記予定で準備をします。

○『ぐんまの自然の「いま」を伝える』報告会

日程：2021年1月23日～2月21日

開催場所：群馬県立自然史博物館

当会はポスター掲示に加え、パワーポイントを使い尾瀬の現状を伝える予定です。開催自体は正式に決まりましたが、入館の際にはオンラインによる事前予約などが予想されます。詳細は群馬県立自然史博物館のホームページで必ずご確認をお願いします。

<編集後記>

尾瀬は10月31日に、気温氷点下5.6°C、積雪は約10cmとなり、施設も含め長い「冬眠」に入りました。

夏期の気象変化も記録的な事例が多々発生しました。冷夏と言われた7月の1mm以上の降水日は29日間となり、統計開始以来の最長記録でした。一転して8月の「夏日」は28日間となり記録更新。また最高気温は8月20日に33.2°C（第1位タイ記録）となり、夏日はトータル46日間（第2位）という冷夏から猛暑へと激変の夏でした。

9月に確認したブナは実は、「凶作」と言えるほど、どのブナの木もほとんど実が付いていませんでした。ブナの実にはクマの好物であり1gで7kcalある高カロリー食。クマは仕方がなくミズナラにクマ棚を作り、小さなドングリで飢えをしのいでいます。人の入り込みの少ない今年は、メインの木道近くまでクマ食堂の跡が作られていました。頭上3m以上のミズナラの枝には、山の鼻に至る木道脇でさえ、たくさんのクマ棚がありました。長雨や猛暑という気象激変が、植物相の生活リズムに大きなストレスを与えた影響が大きな一因とみられています。利根沼田地域で堅果類の実りを調査した群馬県農政部鳥獣被害対策支援センターでは、「ブナは大凶作、ミズキは凶作、ミズナラ、コナラ、クリは不作で5樹種の合計では凶作となった」報じました。（大山）

NPO 法人

尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.23.No.3 2020年11月25日

発行人：磯部 義孝

編集担当：大山 昌克

Web担当：鈴木 誠一

■本部事務所（事務局）

〒969-0402 須賀川市仁井田字大谷地 378-1

電話/FAX 0248-94-5003（磯部工務店内）

■群馬支部

〒371-0846 前橋市元総社町2-21-12 小鮒方

電話 027-251-1089